

水稻品種「愛知 135 号」の定着促進

1 対象

「愛知 135 号」を栽培している 3 経営体（なごや農協、あいち尾東農協、尾張中央農協管内）

2 背景

近年、夏の高温によって、水稻農家の収入に直結する米の品質が低下している。このため、水稻生産現場からは高温でも品質の落ちない「高温登熟耐性」をもつ水稻品種を求める声があがっている。そんな中、高温登熟耐性を持つ早生品種「愛知 135 号」が育成され、令和 7 年に一般栽培が開始される。農業改良普及課では、現地で肥料銘柄や施肥量の比較をとおして現地での栽培体系について検討した。そして令和 5 年に、1 年間の農作業スケジュールをまとめた栽培暦について、素案を 3 農協管内で作成した。令和 6 年は、令和 7 年産の一般栽培開始に向け、産地に適応した栽培暦を作成し農家に周知することで品種の定着を促す必要がある。



図 愛知 135 号

3 活動の内容

(1) 展示ほの調査と栽培指導

3 農協管内で作成された栽培暦の素案に基づいた展示ほを設置し、生育調査及び収量調査を行い、栽培試験データを収集した。また、近年被害が多発しているカメムシ類の防除及び適期収穫を指導し、高品質米の栽培を促した。

(2) 農協と連携し、産地に応じた栽培暦を作成

令和 7 年に新品種である「愛知 135 号」が産地へ導入されることに向け、カントリーエレベーターやライスセンターにおける収穫後の荷受けについて農協と協議し、スムーズな導入を促した。これらの協議内容及び現地栽培試験結果に基づき、栽培暦を 3 農協で作成した。

(3) 「愛知 135 号」の栽培試験結果及び栽培暦の周知

農家が集まる会議で「愛知 135 号」の特徴や栽培試験結果を広く周知し、「愛知 135 号」を多くの農家に知ってもらえるよう活動した。また、農家に対し栽培暦を配布し、説明を行うことで作付を検討してもらえるよう促した。

4 活動の成果

令和 6 年の異常な暑さにもかかわらず、病虫害防除や適期収穫の指導もあり、展示ほでは高品質米が生産できた。これにより「愛知 135 号」の高温登熟性を農家に示すことができた。また、「愛知 135 号」の情報を適切に周知したことにより、令和 7 年に 3 農協内の 6 法人与 2 戸で約 88ha 作付される予定となった。